

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、 ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、 ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア マンスリー・レポート



ブラジル



南アフリカ



メキシコ



オーストラリア



トルコ



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー

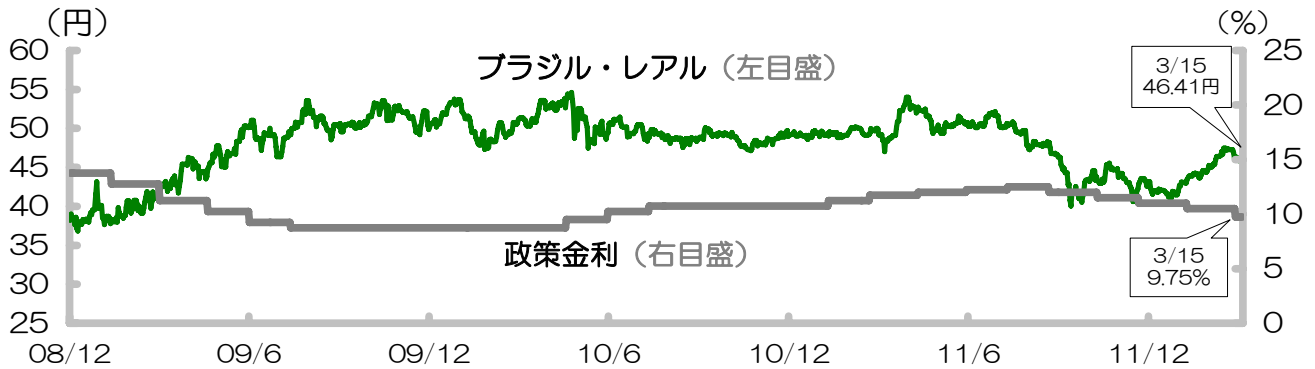


インドネシア

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアルは日銀の追加量的緩和を受けて円に対して上昇～
 ブラジルでは自動車生産台数の減少傾向に変化がみられ、また10～12月期の実質GDP成長率が前期比プラスに転じるなど景気に明るい兆しがみられました。ブラジル中央銀行は予想を上回る0.75%の利下げを実施しました。ブラジル・レアルは日銀の追加量的緩和を受けて円に対して上昇しましたが、利下げ、金融取引税率の引き上げ、中国の目標経済成長率の抑制を受けてドルをはじめとした他の主要通貨に対して下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルは投資家心理の好転もあり下値は限定的か～
 減速傾向が続いていた景気については、今後、製造業の回復が期待されます。政府は財政収支の悪化に配慮しつつもインフラ投資を継続するとみられ、底打ち時期は近いとみています。海外からの直接投資は高水準を維持しており、証券投資資金も回復しています。政策金利についてはインフレ率が同ターゲット内に収斂していることから引き下げの余地は残ると考えられます。ブラジル・レアルは、中国経済の成長率抑制や今後も継続的に実施されるであろう通貨高抑制策が気掛かりですが、投資家心理の好転、堅調な米国景気に加え、資源価格の持ち直し期待などから底堅い動きに移行するとみています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは欧州債務問題に対する懸念の後退などから上昇～
 メキシコでは小売売上、消費者信頼感指数など個人消費関連に加え、製造関連の経済指標にも堅調さがみられます。米国を中心とした海外での就業者からの送金額は前年比での上昇が続いており個人消費にも好影響を与えているとみられ、景気の緩やかな拡大が続いています。政策金利は4.5%に据え置かれています。メキシコ・ペソは欧州債務問題に対する懸念の後退、原油価格の高止まりなどから堅調に推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは投資家心理の好転、原油高などから堅調か～
 景気については、2月の自動車の輸出は前月に減少した反動から大幅に増加しています。2011年通年の実質GDP成長率は+3.9%となり、金額では既に金融危機前の水準を大幅に超えています。好調な米国景気や高止まりを続ける原油価格などから景気は好調を維持するとみています。物価が依然として落ち着いていることから政策金利は当面据え置かれるとみています。メキシコ・ペソは、良好な米国景気、中東情勢を受けた堅調な原油価格などからじり高基調になるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の結果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは好調な景気、欧州債務問題の後退などから上昇～

トルコでは景気の拡大が続いており、2011年のGDPは2008年の金融危機前の水準を超えています。ただ、足元では個人消費、製造業とも鈍化の兆しがみられます。消費者物価については上昇基調にあったコア指数(前年比)が僅かに鈍化しました。政策金利は据え置かれましたが、貸出金利の上限を引き下げるなど物価に警戒しつつ緩和姿勢もみせています。トルコ・リラは対円では上昇しましたが、首相の利下げに関する発言を巡って金融緩和期待も台頭したことから対ドル、ユーロでは下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは堅調な景気、投資家心理の改善などから底堅い動きか～

景気については今後拡大ペースが減速するとみられます。中央銀行は、悪化傾向にあった経常収支については景気の減速とともに改善し、物価上昇については2012年4～6月期以降には鈍化すると予想しています。政策金利は据え置かれるとみられますが、世界経済の先行き不透明感が残ることから貸出レートの調整で柔軟に対応すると考えられます。トルコ・リラは堅調な景気、投資家心理の改善から底堅い動きになるとみえています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは堅調に推移～

南アフリカの政策金利は5.5%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、ギリシャへの第二次金融支援に対する期待から投資家のリスク回避姿勢が後退したこと、日銀の量的金融緩和とともに実質的なインフレ目標導入を受けて円安傾向となったこと、PMIが市場予想を上回ったことから、3月初めにかけて堅調に推移しました。その後も順調なギリシャ債務交換を受けてじり高となりました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内で強含みか～

景気については、10～12月期実質GDPが市場予想を小幅ながら上回りました。また、製造業生産高が前月比でプラスとなり、PMIが引き続き上昇するなど、緩やかな回復傾向が続いています。消費者物価指数はすでに同国の目標インフレ率の上限(6%)を小幅に上回って推移しており、今後も続く可能性があります。景気に対する配慮から政策金利については当面据え置かれるとみえています。南アフリカ・ランドは、緩やかな景気回復傾向に加えて、現行の金利水準が続くとみられることから、レンジ内で強含みで推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～オーストラリア・ドルは対円では上昇するも、経済指標悪化から対ドルでは下落～
 オーストラリアでは雇用環境が悪化し、個人消費や住宅関連指標に対しても悪影響がみられました。政策金利は予想に反して4.25%で据え置かれています。オーストラリア・ドルは日銀の追加量的緩和を受けて円に対して上昇しましたが、経済指標が悪化したことからドルに対して下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは利下げ期待、景気鈍化などから上値の重い展開か～
 景気については、足元の景気指標に加え10～12月期実質GDPが予想を下回るなど減速感が強まっています。また中国が2012年の経済成長率目標を引き下げ7.5%としたことも先行きに対する不透明感を強める要因となっています。政策金利については、2012年7月以降の炭素税導入による物価押し上げが意識されますが、同準備銀行はインフレ見通しを下方修正しており追加利下げの可能性もあるとみています。オーストラリア・ドルは投資家心理の好転はありますが、利下げ期待、景気鈍化などから上値の重い展開が予想されます。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】～ニュージーランド・ドルは外部環境の好転を受けて上昇～
 ニュージーランドでは、10～12月期の小売売上高が+2.2% (前期比) となり市場予想を大幅に上回りました。政策金利については、中期的なインフレ見通しが安定的であることもあり、据え置かれました。ニュージーランド・ドルは、中国の経済成長率目標引き下げや中央銀行の金融政策会合後の声明文で自国通貨高による利上げの必要性低下が示唆されたことが重しとなりましたが、ギリシャへの追加支援の合意、良好な米国経済指標などを受けて投資家心理が改善したこともあり、対円で上昇しました。

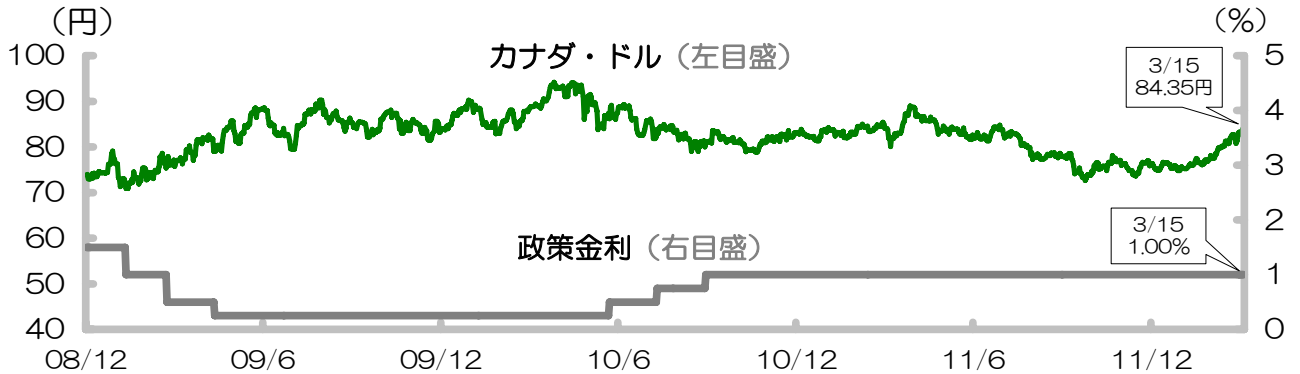
【当面の金利・為替の見通し】～ニュージーランド・ドルは上値の重い展開か～
 景気については、大地震からの復興需要もあり緩やかに回復を続けるとみられます。企業景況感を示す経済指標も改善を示しています。政策金利については、足元で物価関連指標が落ち着きを見せていることや、中央銀行が自国通貨高による経済成長の鈍化を懸念していることもあり、据え置かれるとみています。ニュージーランド・ドルは、足元の投資家心理の改善は支援材料ですが、自国通貨高やインフレ圧力の低下を受けて利上げ期待が後退したことや、中国景気の鈍化懸念もあり、上値の重い展開になるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ



【足元の金融市場の動き】 ~ カナダ・ドルは良好な米国経済指標や原油価格の上昇から上昇 ~

カナダでは、10～12月期の実質GDPが前期比年率で+1.8%と堅調でした。特に個人消費および米国の景気回復を背景とした輸出の伸びが寄与しました。消費者物価指数は+2.5%（前年比）となり市場予想を小幅に上回りました。政策金利については、据え置かれました。カナダ・ドルは、良好な米国経済指標やギリシャへの追加支援合意などによる投資家心理の改善に加えて、原油価格が上昇したこともあり、上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ カナダ・ドルは米国景気や原油価格を受けて堅調に推移か ~

景気については、堅調な個人消費や米国向けの輸出増加が期待されることもあり、回復を続けるとみられます。中央銀行は現行の経済成長率やインフレの見通しをわずかながら上方修正しました。政策金利については、当面は現行水準を維持するとみえますが、中央銀行の金融政策会合後の声明文では家計の信用リスクやインフレ圧力の高まりへの懸念が示されています。カナダ・ドルは、堅調な米国景気や原油価格の高止まりなどが支援材料となることから堅調に推移するとみえます。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】 ~ ノルウェー・クローネは上昇後、レンジ内での推移 ~

ノルウェー中央銀行は予想外の0.25%利下げを実施し、政策金利を1.50%としました。ユーロに対して上昇が続く中、ノルウェー・クローネの対円での動きは通貨高対策としての金融調節に対する中央銀行の姿勢に力強さがみられなかったこと、日銀が追加金融緩和の実施とともに実質的なインフレ目標を導入し円安傾向となったことに加え、原油価格が上昇したこともあり、3月上旬にかけて上昇し、その後はレンジ内で推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】 ~ ノルウェー・クローネはレンジ内で推移か ~

景気については、PMIや小売売上高、消費者信頼感などが市場予想を上回り、鉱工業生産が前年比でプラスになるなど、緩やかな回復傾向にあります。中央銀行は、今回の利下げについては自国通貨高と低水準のインフレ率に対応したとしており、当面は現行の政策金利を維持して効果を見守るとみられます。ノルウェー・クローネは、今後の欧州景気の鈍化による輸出への影響が懸念されますが、同国については緩やかな景気回復基調が続くとみられることから、レンジ内で推移するとみえます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



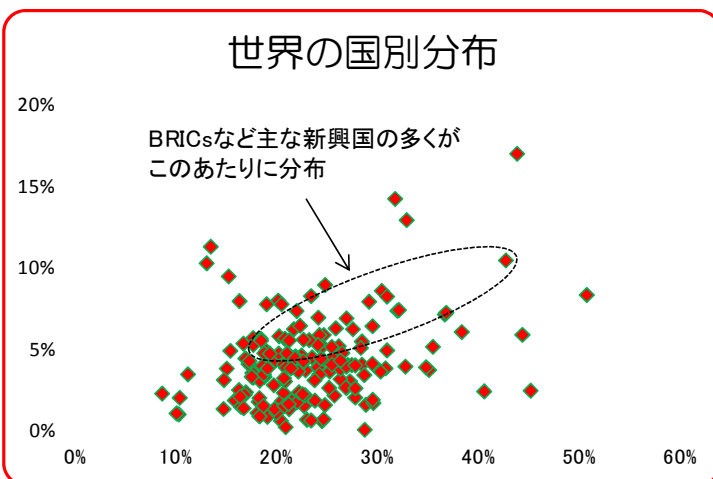
【足元の金融市場の動き】～ インドネシア・ルピアは外部環境の好転から上昇～
 インドネシアでは、消費者物価指数が+3.56%（前年比）と市場予想を下回りました。政策金利については、足元のインフレ圧力が落ち着いていることもあり、据え置かれました。インドネシア・ルピアは、2月下旬以降、原油価格が高騰する中政府による燃料代補助金の削減策の実施観測を受けてインフレに対する懸念が強まったことからもみ合う場面がありましたが、ギリシャへの追加支援の合意や良好な米国の経済指標を受けた投資家心理の改善から上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ インドネシア・ルピアは上値の重い展開か～
 景気については、個人消費や投資など内需を中心に堅調に推移しています。政策金利については、依然として高水準にある実質金利を考慮すれば利下げ余地は残されているとみられますが、現在計画されている燃料代補助金の削減策によって一時的にインフレ圧力が高まる可能性があることから、据え置くとみています。インドネシア・ルピアは、投資家のリスク回避姿勢の後退は支援材料ですが、海外資本の流出、旺盛な内需を背景とした輸入の増加、燃料代補助金の削減策実施によるインフレ懸念などから、上値の重い展開になるとみています。

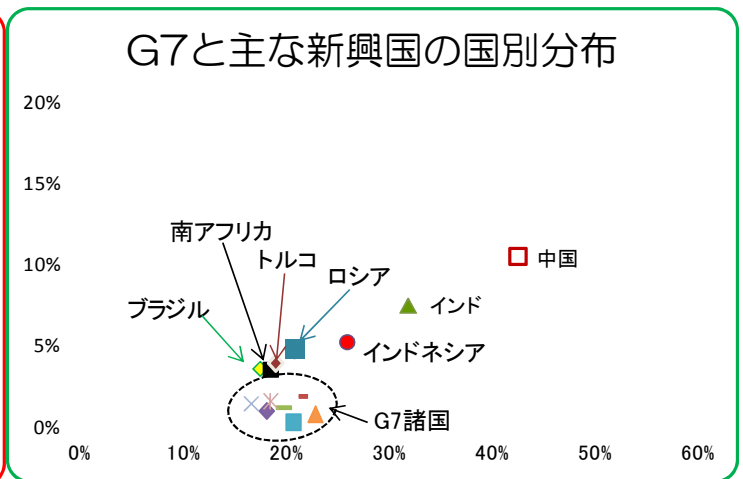
データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

今月のトピック

【新興国の「GDPに占める投資の割合」と「実質GDP成長率」との関係】



世界的に投資の割合と成長率には正の関係がみられる



新興国では投資の割合と成長率における正の関係が鮮明

※1.横軸: GDPに占める投資の割合 縦軸: 実質GDP成長率(2001年～2010年の年平均) ※2.出所: IMF(世界経済見通し(2011年9月)掲載データをもとに作成)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。